

2022 年度春学期「教員アンケート」の結果について

流通経済大学 FD・SD 委員会

目次

1. 回答者とその内訳	1
2. 学生アンケートが自身の取り組みの振り返りに役立っているか	1
3. 学生の集中や理解を促す取り組みについて	2
4. 前回アンケートで提示した改善策の実施状況	4
5. 今後の改善計画	4
6. 対面授業の教育効果や本学の魅力を高める活用方法の提案	5
7. 特別な配慮が必要な学生への対応	6
8. 改善要望	7
参考資料（集計数値）	8

1. 回答者とその内訳

・2022年度春学期の教員アンケートには、128名(2021年度春144名、秋115名)が回答した。内訳は、専任教員が80名(2021年度春79名、68名)、非常勤講師が48名(2021年度春65名秋47名)であった。すべての学部を通じた回答者の総数は、昨年度の春学期と比べるとやや減少したが、専任教員の回答率は若干上昇し、前年度の秋学期と比べるとやや増えた。ただし、教員の総数は学期によって異なること、毎年春学期の回答者数は秋学期と比べると多くなる傾向があること等には注意しなければならない。

2. 学生アンケートが自身の取り組みの振り返りに役立っているか

・「学生アンケートが自身の取り組みの振り返りに役立っているか」という質問には、回答者総数の81.3%(104名、2021年度春78.5%113名、秋81.7%94名)が、「とても役立っている」あるいは「概ね役立っている」と回答した。

・役立っていると回答した理由として、特徴的な記述回答

「参考になる意見や気づいてなかったことへの言及があったからです。何とか回答率を上げたいです。」

「今のやり方で、学生が十分に理解してついていけているのかを把握できるため。」

「学生の自由記述欄に鋭いコメントが時々ある。」

「こちらの感覚ではレベルは問題ないと思っていたが、学生にとっては難しい部分があるということが分かった。後期、改善に努めたい。また、以前からわかってはいたが、聴解力に問題がある人がいるということを確認した。」

「リアクションシートだけでは、学生の興味関心に合っているかなど評価しにくい。」

「学生がどの程度学習に時間を割いているか理解できました。学習時間を増やすような工夫をしていきたいと思います。」

「回答率が低いには不満足である。授業の冒頭やmanabaのコースニュースで、何度も回答するよう促したり、誘因を与えたりしても、回収率はたかだか50%程度である。他方で、学生が匿名で感想や意見を述べられる機会がまったくないのも困るので、「学生アンケート」は続けてほしい。」

「改善に向けた具体的な提言を出す学生も若干ながらおり、参考になる。」

「教室では、いまひとつ学生さんたちの反応を掴み切れなかったので、好意的に受け止められていることがわかり、良かったです。」

「好意的なコメントは励みになるし、批判的なコメントは授業づくりをする上で役立てられているから。」

「アンケートをきちんとやるように何度も注意をしたが、総数はあまり増えなかったようである。形式はどうであれ、学生からの意見は役に立つと思うのでやった方が良いと思う。」
など

・学生への授業アンケートの実施方法について

「回答数が少ない・回答率が低い」との言及が 18 件（2021 年度秋 20 件、役立っているとの肯定的なコメント内での言及も含む）

「1 名、すべて 5 を選んでいて、これが本心によるものなのか、それとも適当に回答したものなのか判別できません。アンケートで意図的に反転項目を入れるなどの工夫がほしいと感じました。」

「毎年、授業終了近辺はレポート課題の説明などで十分に告知する余裕がないことが多いです。可能であれば、講義単位の manaba の小テストやアンケートで実施できれば、期末レポートや普段の小テストと並べて学生に提示したいのですが、集計の都合で難しいかなとも思ったりしています。」

「「難易度は適切なものか」という問いに対して、「そう思わない」の場合、難しすぎたのか易しすぎたのかを知りたいと思います。「進行速度」についても同様(速すぎるのか、遅すぎるのか)。」

「記述式の問の設計に問題がある。改善を要する点は必須回答で求め、自由記述は任意である。この設計だと、授業を良いと感じた学生は必須回答に「特にない」と回答するだけ(任意の自由記述には通常回答がない)となるので、結果、悪い点のみがひたすら挙げられる格好となり、回答を受け取る教員側の心的負担が高いと考える。授業改善につなげるという目的が第一であるのはわかるが、もう少しニュートラルな聞き方をして、良い点も改善点も得られるような工夫をしてほしい。「ここが良かった」というフィードバックも授業の質向上には大切なはずで、現状はそれが得にくい形となっている。以上をふまえると必須回答を「この授業の魅力的な点、あるいはより魅力的な授業になるための具体的なアイデアについて、書いてください。差別的・攻撃的な記述はおやめください。」(入力必須)などにし、自由記述は削除するのはどうだろうか。

実施期間が長すぎると感じる。まだ授業を 3,4 回残しているタイミングで開始されるので、授業全体を通した正当な評価になっているか疑問がある。2 週間程度にし、回収率が低ければ延長するような設計を検討してほしい。」

など

3. 学生の集中や理解を促す取り組みについて

・学生の集中や理解を促す取り組みについては、対面形式で運営する授業も増えたが、前年度秋学期と同様に、manaba を利用した資料の提示、また動画資料の提供など、これまでのオンライン授業で蓄積した工夫を挙げる教員が多かった。

動画、映像資料の活用の取組についての言及 22 件(21 年度秋 34 件)

「パワーポイント、動画を利用して、視覚的に理解しやすいようにした。」

「全部、動画が欲しいとのことでしたので、学生たちが一番使っているであろう Youtube で授業資料を Up していました。また、集中力が途切れたり、早送りするのを防ぐために、

10~15分程度の動画を3本に分けて準備しました。何回か通しでも録画してみたのですが、再生数があまり伸びない気がしました。オンデマンド授業は思っていたより、学生の皆さんが好んでいるようでした。このままの方法がいいという意見が多かったです。」
など

manabaの小テスト機能も活用に触れた振り返りの取組19件(21年度秋15件)

「C-learningのコード入力ではなく、出席テストを実施している。授業中の任意の時点で、manabaを用いてクイズを5回行う。正誤にかかわらず3回以上回答していれば、出席とする。」

「講義で話したことを、その日の小テスト、振り返り課題を提出させ、集中力を高めさせている。」

など

そのほかの取組について

「学生同士でグループワークを行う時間をできる限り多く作るようにした。結果、活発な議論が行われたが、一部のやる気のない学生にチーム全体が引っ張られてしまうケースも見られた。」

「担当科目の全てが対面授業となったため、なるべく授業中に学生に話させる機会を作っている。学生からの評価は期待の水準といってもよいが、自宅での学習がやや弱く、今後の課題となった。」

「対面ではできる限り学生の発言を引き出そうとしたが、教員の空回りに終わってしまっているようで、学生の意見が引き出せていない。」

「オンライン授業で実施していた毎授業での要点・感想の提出を対面授業でも継続したことで、学生の理解度や感想を把握することができ、それをもとに授業内容を調整することができた。」

「すべて対面で実施できることをありがたく受けとめている。学生の顔や態度をみて理解度に応じたペース配分(遅くしたり速くしたり)ができるのは、対面ならではの部分がある。一方で、オンライン授業のようにmanabaを通じてスライド資料を配布することが普通になり、欠席者の中に自習して課題だけ提出する学生がいるなど、コロナ前の対面に比べてオンラインの使い方がお互いにうまくなって理解を深めることに役立っている。」

「対面授業においても、授業動画を録画しmanabaにアップした。そのためコロナに感染または感染者に濃厚接触し、授業に出席できない学生もほぼリアルタイムで授業を受講できた。」

「空欄補充型のレジュメを用意し、適宜記入させながら授業を行うことで、受講生の集中力が途切れないよう心がけた。」

など

4. 前回アンケートで提示した改善策の実施状況

・おおよそ改善できたとするコメント 15 件 (21 年度秋 79 件)

「前回のアンケートでは、特に講義科目において、発言の代わりに、manaba 等で意見をあつめる取り組みをするとし、上記のとおりそれを実施した。自発的に発言できない学生に対して、疑問・質問などを発することの重要性を示せたと考えます。」

「前年度までのオンライン授業で得た経験や講義資料が、久しぶりの対面授業でも有効に活用できた。」

「授業を録画した復習用の動画も提供し、欠席者にも動画を通じた授業を提供することができた。前年度はグループワークが実施できなかったが、今学期も実施を避けた。秋学期は実施したい。」

など

・改善には至っていない、難しいとのコメント

「前回アンケートで提示した改善策を十分に実施できたとはいえ、そのため成果も判然としない。引き続き、改善策の実施に取り組みたいと考えている。」

「授業時間外の学習時間が少ないというアンケート結果となった。課題を出して工夫したが、結果はあまり変わらないように思う。」

「オンデマンド授業でのビデオを短く区切ったり、また補足ビデオやインフォメーションなども manaba に載せたが、受け取る学生に温度差があり、全面的に効果があったとはいえない状況である。」

「今回、対面授業であったため、特に改善策の実施は行っていない。」

「前はオンラインが主流で、オンライン講義(リアルタイム、動画配信)をどのように改善するかということを書いたが、対面への移行により、ここにオンライン講義の改善策の成果を書くよりも、ここでは対面講義が、新型コロナ前と後ではいかに変容したかを書きたい。実際、それほどの変化はないが、オンラインよりも対面を望んでいる学生が多いのに驚いた。やはり学生にとっても、ただ一方的な視聴講義よりも、講師と学生が同じ空間の中で、お互いの「気」を感じながらのほうが、しっくりいくのだろう。」

など

5. 今後の改善計画

次のような記述回答が見られた。

「どの授業でも、内容のポイントをプリントなどを用いて、分かりやすく説明する必要性を感じている。」

「事後学習が行えるように、準備したい。効果的な資料を提供できるよう改善していく。」

「学生の学習時間を増やすため、こまめな小テストを行っていきたいと思います。」

「学生の興味を高めるために、事例・画像・動画を多用する。授業時間外の学習時間を確保するために、授業時間外でおこなう課題を増やす。」

「旧態然とした講義型ではあるが、簡単な振り返りと課題提起で、一部個別回答と興味喚起を

行う。」

「反転授業で、授業時間の意見や発表を促す。」

「物事のプロセスや詳細を把握するのが不得手な学生へのフォローをどうするかが課題。的確に内容を把握できるような図解のしかたや説明のしかたを検討したい。」

「良さも大変さもすべて含めて大学の対面授業を経験してもらおう。オンラインの効果的な活用法を引き続き探る。Covid 前と同様の姿勢で取り組む。」

「コロナが収束したら、グループワークで会話の時間を多くする。参画型授業を組み入れてみたい。」

「学生の履修の関係もあるので難しい場合もありますが、できればSAの学生を育成して1年生との橋渡し役になってもらえればと考えています。」

「授業アンケートの回答を呼びかけ、否定的な意見・提案も含めた受講生の声を聴くように努めたい。」

など

6. 対面授業の教育効果や本学の魅力を高める活用方法の提案

・対面授業の教育効果や本学の魅力を高めるためのオンライン授業の活用については、以下のような提案があった。

・オンライン形式時に活用した manaba の小テスト機能の対面形式時の活用 19 件 (21 年度秋 21 件)

「授業の最後に小テストによる振り返りを行った。これまでは紙によるテストだったが、システム上での自動採点によりリアルタイムでの理解度が確認できた。」

「manaba「小テスト」や「レポート」を活用し、対面授業を補完するツールとなりました。」

「manaba の小テストのドリル機能は、学習に関する習慣の形成を助けるのにかなり使えると感じた。」

など

・動画提供などオンデマンド形式の活用による欠席者への対応、また学生の自主学习(予復習)のサポート

「事前学習動画は学生が講義内容を把握するのに役立ったようだ。」

「対面科目についても現在のように簡易な収録システムによるのではなく、本格的な同時配信が可能なように整備をし、欠席者が自学自習でフォローアップ等できるようにする。」

「事情によって登校できない学生に向けて補講などサポートができた。」

「manaba と C-learning のツールは教員側の使い方次第だと感じました。また、今学期オンライン授業は行ってませんが、オンライン授業を動画として録画し配信など後からでも追えるようにすると、遠方にいる学生も授業に参加可能になるため、学生側のメリットが増えると思います。」

など

・その他

「悲観的です。オンラインで、学生は画面の「情報」として「見る」傾向がつよくなり、「一過性」の「情報」として、その時(一瞬)のみ「わかったつもり、理解したつもり」になる傾向が強まるであろう。「ある程度以上の授業に関心ある者」には、オンラインは有効であると思う。」

「オンライン講義は非日常の特殊講義であり、日常であれば、対面講義が実施されるわけです。このオンライン講義という形式が何故に教育効果の手段を高める効果などがあるのでしょうか。もうすでに積極的な活用の仕方など考えることなどなく、その時必要であれば、使用し必要でなければあえて使用しないという方向が、現在の趨勢になっているように思います。」

など

7. 特別な配慮が必要な学生への対応

「日本語能力不足の履修生から、授業ビデオ視聴の要望があり、理解向上の一助になったようだ。」

「講義に出席できなかった場合でも内容が理解でき、課題が提出できるよう、manabaを活用(講義スライドを載せる、コースニュースで課題のリマインドを行う等)して必要な情報を伝達した。また、必要に応じて個別にメールを送ってフォローした。」

「当該学生のみ manaba を設置し、授業に準じた内容で当該学生の状況に合わせた資料を別途アップし、manaba アンケートに回答を入力してもらった。

→当該学生の体調が悪い場合に回答が得られない場合など逐一連絡をとった。手間がかかったが、時間をかけながらも学生が取り組んでくれたので、特別な配慮をして良かったと思う。」

「少々、日本語能力の低い留学生がいました。コミュニケーションの問題から、授業を休む傾向があるように感じましたので、私からできるだけ声掛けをして、授業のサポートをするようにしました。その結果、授業の出席度も改善されたように思います。」

「身体に障害のある学生については、授業中に何かを書かなければならない場面では、長く時間を確保するようにした。また、発達障害を抱える学生に対しては、授業中に皆の注目を浴びる中での発言を求めることは避けるなど、当該学生の特性に応じた配慮を行った。」

「通常のペンをもつてのノート・テイキングに難がある受講生に対しては、まず黒板と口述が視聴しやすい前列の席に着かせ、自用パソコンの持ち込みを許し、ノートのタイピングを許可しました。期末試験では自筆ノートの持ち込み可としましたが、この受講生には自分がタイピングした内容をプリントアウトしたペーパーの持ち込みを許可しました。結果としては、本人も向学心の旺盛な受講生であったこともあり、大過なく終えることができました。」

「そもそも大学に来ることができない学生がいます。保護者との連絡にあわせて、教育学習支援センターおよび学生相談室とも連携しているが、大学に登校できないとなると、指導や相談にのることもできず大学のサポート範囲を超えた状況にある。こうした学生への対応

についても検討を要すると思われる。」

など

8. 改善要望・提案

・授業運営環境について

「PC に web カメラを設置しただけの簡易的な設備ではなく、教室の天井にカメラを設置し教室全体の映像を取めることができるしっかりとしたハイブリッド設備を整えてほしい。」

「学科共通科目の講義は受講生が多く、来年度も今年度と同じ制度になる場合、履修制限を課す必要が出てきます。履修制限をしたくないので、教室での講義をリアルタイムで受講する対面講義として履修することと、講義を録画してそれを見て受講するオンライン講義として履修することの両方から選択できるようにすると、学生の選択肢が増えてよいと思います。そのためには、大教室講義の様子を録画する設備を導入いただけるとよいかと思いません。」

「対面授業であっても学生達にその場ですぐにオンラインを通じて資料を確認してもらえよう、全学部 PC 必携化がよいのではないかと考える。」

「個人 PC がなくても他キャンパスとつないでリアルタイムオンライン配信の授業ができるようにしてほしい」

など

以上

参考資料（集計数値）

1. 回答者とその内訳

●学部別の回答者数

	2020年度春	2020年度秋	2021年度春	2021年度秋	2022年度春
経済学部	41	25	44	28	35
社会学部	37	34	43	34	38
流通情報学部	24	17	20	19	20
法学部	21	15	19	16	17
スポーツ健康科学部	22	16	15	18	17
無回答	4	0	3	0	1
	149	107	144	115	128

●専任・非常勤別の回答者数

	2020年度春	2020年度秋	2021年度春	2021年度秋	2022年度春
専任	92	71	79	68	80
非常勤	56	36	65	47	48
無回答	1	0	0	0	0
	149	107	144	115	128

●専任教員の回答者数（学部別）

	2020年度春	2020年度秋	2021年度春	2021年度秋	2022年度春
経済学部	24	17	23	15	17
社会学部	19	18	19	16	21
流通情報学部	17	13	16	14	16
法学部	13	9	11	9	10
スポーツ健康科学部	18	14	10	14	16
無回答	2	0	0	0	0
	93	71	79	68	80

●科目区分別の回答者数

	2020年度春	2020年度秋	2021年度春	2021年度秋	2022年度春
専門科目	84	63	82	69	78
教養科目	65	44	59	45	47
無回答	0	0	3	1	3
	149	107	144	115	128

2. 学生アンケートが自身の取り組みの振り返りに役立っているか

	2020年度春	2020年度秋	2021年度春	2021年度秋	2022年度春
とても役立っている	29	15	23	13	14
概ね役立っている	94	71	90	81	90
どちらとも言えない	23	15	21	17	22
あまり役立っていない	3	6	10	3	2
全く役立っていない	0	0	0	1	0
無回答	0	0	0	0	0
	149	107	144	115	128

